巻 頭 言

信州大学在籍時とその後

大　塚　篤　司

信州大学医学部同門会のみなさま，こんにちは。2003年に信州大学医学部を卒業し，現在は近畿大学医学部皮膚科学教室の主任教授を務めております大塚篤司と申します。この度は，母校の同門会誌への寄稿の機会をいただき，誠にありがとうございます。学生時代の思い出と卒業後の歩みを振り返りつつ，信州大学医学部での学びが私の人生に与えた影響について綴らせていただきたいと存じます。

信州大学医学部では，学業とスキー部での活動に明け暮れた充実の日々を送りました。競技スキー部に所属し，初心者だった私を先輩や仲間が根気強く指導してくれたおかげで，スキーの奥深さと面白さを知ることができました。冬の週末は白馬（特に鹿島槍スキー場）や菅平高原のゲレンデに通い，夏はトレーニングに励む中で，技術だけでなく仲間との絆も深まっていきました。スキーを通じて得た教訓や経験は，医学者としての人生の礎になったと感じています。

また，信州大学医学部では，数多くの優れた教授陣のご指導のもと，医学の奥深さと面白さに魅了されました。特に，スキー部の顧問であった脳神経外科学教室の小林茂昭先生，泌尿器科学教室の西澤理先生，耳鼻咽喉科学教室の宇佐美真一先生との出会いは，私の医学者としての人生に大きな影響を与えてくれました。小林先生は，私が医学部を受験した際の面接官を務めてくださっただけでなく，スキー部の活動においても多大なるご指導を賜りました。西澤先生の温和なお人柄は今でも忘れられません。特に，私の卒業時のスキー部の追い出しコンパで歌ってくださった相撲甚句は，今なお鮮明に記憶に残っております。また，学生時代に宇佐美先生に研究についてご相談させていただいたことが，その後の医学者としての人生において，かけがえのない指針となっています。

大学時代の思い出として特に印象深いのは，1998年の長野オリンピックでのボランティア活動です。世界中から集まったアスリートやスタッフ，観客を間近に見られたことは，グローバルな視点を持つ貴重な機会となりました。選手たちの熱戦を支える医療スタッフの仕事は緊張感に溢れるものでしたが，オリンピックを成功に導く一助となれたことを誇りに思います。この経験は，医療の現場でもチーム一丸となって困難に立ち向かう大切さを教えてくれました。

また，東医体の主幹を務めたことも，私の学生時代の思い出に深く刻まれています。全国の医学部生が集う大規模なスポーツイベントを，信州大学医学部が主催するという重責を担いました。大会の準備や運営には様々な困難がつきものでしたが，同級生や先輩，後輩たちと力を合わせ，知恵を出し合いながら乗り越えていく過程で，信州大学医学部生の団結力と協力力を実感しました。

学生時代に生化学教室に通い，鎌田徹先生のご指導のもと，がん研究に取り組めたことは，その後の研究者人生に多大な影響を与えてくれました。在籍中に筆頭著者として国際誌に論文が掲載されたことは，研究者としての大きな自信につながっており，今なお私の励みとなっています。

信州大学を卒業後，私は京都大学大学院で皮膚科学の研鑽を積み，アトピー性皮膚炎の病態解明と新規治療法の開発に取り組みました。基礎研究と臨床の架け橋となるトランスレーショナルリサーチに携わる中で，研究の成果を一刻も早く患者さんに届けたいという思いを新たにしました。信州大学医学部で培った医学への情熱と探究心は，私の研究活動の原動力となっています。私にとって幸運だったのは，製薬会社との共同研究が実を結び，アトピー性皮膚炎の新規外用剤を世に送り出すことができたことです。この成果は，研究者としてのやりがいを実感できる瞬間であり，研究に打ち込んできて本当に良かったと心か

ら思います。

その後，チューリッヒ大学への留学では，皮膚がんに対する免疫療法の開発に携わり，世界トップレベルの研究者との交流を通じて，医学者としての視野を大きく広げることができました。グローバルな視点を持つことの大切さを学んだ長野オリンピックでのボランティア経験は，国際的な研究活動を行う上で大きな糧となりました。

現在は，近畿大学医学部皮膚科学教室の主任教授として，教室員とともに皮膚科学の発展に尽力しています。信州大学医学部で学んだ医学への情熱と探究心，そして患者さんに寄り添う姿勢を胸に，研究と教育，診療に邁進する日々です。アトピー性皮膚炎や皮膚がんをはじめとする難治性の皮膚疾患に苦しむ患者さんに希望を届けるべく，病態の解明と新たな治療法の開発に力を注いでいます。

また，次世代を担う若手医師の育成にも注力し，皮膚科学の面白さとやりがいを伝えることで，優れた人材の輩出に努めています。私自身，信州大学医学部の恩師である小林茂昭先生，西澤理先生，宇佐美真一先生，鎌田徹先生をはじめとする多くの先生方から，医学の真髄を学ばせていただきました。その経験を糧に，若手医師たちにも医学の面白さと奥深さ，そしてその先にある患者さんの笑顔を追求する喜びを伝えていきたいと考えています。

母校である信州大学医学部の益々の発展を心から祈念しております。私が学んだ当時と比べ，医学教育のカリキュラムや研究環境は大きく進化を遂げています。最先端の医療を学ぶ機会に恵まれた現在の学生の皆さんが，将来の医学界を牽引する存在として活躍されることを楽しみにしています。また，信州大学医学部の卒業生が，日本だけでなく世界の医学界で活躍している姿を見るにつけ，母校の教育の素晴らしさを実感せずにはいられません。

私も微力ながら，信州大学医学部の伝統を受け継ぎ，医学の発展に貢献したいと考えています。同門会を通じて，世代を超えた卒業生同士の絆を深め，互いに切磋琢磨しながら，医学の未来を切り拓いていければと願っております。信州大学医学部で学んだ日々は，私の人生の礎であり，誇りです。この素晴らしい母校で学ぶ機会を与えてくださった先生方，先輩方，そして家族に深く感謝するとともに，母校の更なる発展を祈念しております。

最後になりましたが，同門会誌の発刊に尽力されたみなさまに，心より感謝申し上げます。同門会が，信州大学医学部の絆を深め，医学の発展を促す素晴らしい場であり続けることを祈念しております。今後とも，母校ならびに同門会のさらなるご発展と，みなさま方のご健勝，ご活躍を心よりお祈り申し上げます。

2023年近畿大学医学部皮膚科学教室の集合写真　中央が筆者

（近畿大学医学部皮膚科学教室主任教授）